「平和の旅 in かながわ」をおえて

８月の初旬、私たち沖縄県教職員組合那覇・島尻支部の7名は、平和学習の一環として沖縄県外にある基地の視察に、神奈川県へ行ってまいりました。同じ基地を抱える者同士の持つ悩みや課題、平和への思いや願いについて、お互いのことを理解する良い経験になりました。視察を行ったのは、「横須賀軍港」「厚木基地」「キャンプ座間」の三カ所です。私からは、「横須賀軍港」と平和の旅を通しての感想を述べさせていただきます。

初日に向かったのは、神奈川県横須賀市にある、在日アメリカ海軍「横須賀基地」です。隣接して、海上自衛隊の自衛艦隊司令部が置かれる日本の自衛隊基地もあります。日米地位協定により隣接する一部地区を共同使用することで、日米一体化の強化が図られています。海上からボートでアメリカ海軍基地に近づくと、巡視艇がこちらの様子をうかがっているのが遠目にもわかりました。あまり近づくと銃口を向けてくるということなので距離をとってボートを進めていきました。沖縄の辺野古の海とも重なり、誰のものでもないこの海を、自由に行き来できない現状に歯がゆさと恐ろしさを感じました。港に戻り、平和船団の方々との意見交換を行いました。今、横須賀市での心配事の一つに、米軍基地があることに反対する意見が減少し、容認する意見が増えてきていることだそうです。更に、基地があることを「やむをえない」と捉えている市民が50．4%もいることは、基地容認とは言い難いが仕方がないから受け入れる、どうしようもないから反対しないといった気持ちに感じられました。しかし、別のアンケートからは多くの市民が横須賀市を「基地のまち」にはしたくないという思いを持っていることも分かりました。誰もが安心・安全に暮らせるまち、賑わいがあって子育てしやすく、自然環境に恵まれたまちになることを、横須賀市民が心から望んでいることがわかりました。

このことは沖縄県においても同じようなことが言えるのではないでしょか。基地がないに越したことはないが、様々な理由で基地を容認せざるを得ない、やむを得ないとする人々が大勢いると思います。そのことを理解しながらも、私たちは基地を決して容認してはいけないこと、過去の過ちと、残虐な戦争を二度と繰り返してはいけないことを忘れてはいけません。「基地があるから横須賀は日本一安全なまち」と誰かが言っていました。果たしてそうでしょうか。逆に、基地があることで標的にされ、関係のない市民までもが犠牲になるかもしれません。今の世界情勢を鑑みれば容易に想像がつくのではないでしょうか。私たち一人一人が心から基地はどこにもいらない、武器もいらない、平和な世界が一番だと望み、訴え続け、行動しなければいけないと強く感じました。

那覇・島尻地区合同の平和学習「平和の旅 in かなわが」は 2 泊 3 日の日程を無事に終えることができました。現地でガイドをして頂いたヨコスカ平和船団の方々。参加してくださった先生方。積極的な学びのお陰で有意義な平和学習が行えました。また、旅程の計画や事前学習会、旅の安心・安全を確保して頂いた安里さんにも感謝申し上げます。そして、私たちに学習の機会を設けてくださった那覇・島尻両支部に深く感謝申し上げ、この平和学習の終わりの言葉とさせていただきます。本当にありがとうございました。

沖縄県教職員組合那覇支部 副委員長 神谷朝勇